



文部科学省委託
令和2年度初等中等教職員国際交流事業

日韓教職員オンライン対話プログラム・ 韓国教職員招へいプログラム実施報告書



ACCU

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO）は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア・太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU の教職員国際交流事業における日本のパートナー国は、2001 年から韓国、2002 年から中国、2015 年からタイ、2016 年からはインドが加わり、現在 4 ケ国と連携、東アジアから東南アジア、南アジアに交流国を広げています。開始当初より 2020 年現在までに、海外教職員は 4 ケ国合わせて 4,100 人以上、日本教職員は 1,100 人以上が海を渡り、教育現場が舞台の国際交流を通して、これらの国々の相互理解と友好の増進に大きく貢献してまいりました。

今年度、各国との交流プログラムは新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、オンライン上での交流へと形を変えて実施し、国内外の教職員延べ 174 名にご参加いただき、日本への受け入れには 13 の教育委員会や学校にご協力いただきました。各国のカウンターパートと協働しながら、オンラインだからこそその取り組みを模索する中で生まれた新たなプログラムもあります。変化の激しい社会情勢の中においても、国際交流の重要性を再認識し、課題を見据えながら、よりよい事業に昇華させていくため、ACCU は今後も真摯に取り組んでまいります。

最後に、本事業の実施にあたって多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2021 年 3 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

1 目的

本事業の目的は、プログラム中の活動を通じて、教職員が相手国に対する理解を深めるとともにお互いに学び合い、相手国の教職員や児童・生徒との相互理解と友好を促進し、教職員間のネットワークを構築・強化することです。それは、COVID-19の影響を受けてオンラインのみで実施されるプログラムにおいても変わりありません。日韓教職員が対話を通して互いを知り、経験や知見を共有しあうことによって「教職員から始まる、この時代の日韓の協働のあり方」をともに考えていきます。

2 活動内容

- ・ 韓国の教育制度やユネスコスクールの活動等についてのオンライン講義受講
- ・ 韓国教職員との通訳を介したオンライン交流

(COVID-19の影響下において教育現場および地域で持続可能な社会を作っていくための地球市民教育や平和教育に関する意見交換等)

- ・ オンラインフォーラムへの参加

3 日程

2020年10月11日(日)～10月17日(土)のうち4日間(全てオンラインで実施)

日付	日程	活動
10月11日(日) 14時～16時	第1日目	・オリエンテーション ・開会式 ・講義(韓国の教育事情、ユネスコスクールの活動等)
10月12日(月)・15日(木)	第2～3日目	・小グループでのオンライン意見交換会 ※18時～21時のうち1時間が各グループに割り当てられます。
10月17日(土) 14時～17時	第4日目	・オンラインフォーラム 大テーマ:日韓両国の教育現場はCOVID-19によりどのような影響を受けたか/この時代における新しい協働のあり方の模索 ・閉会式

4 参加者

日本の初等中等教育に携わる教職員 20 名程度。

5 参加資格

- (1) 国際交流・国際理解教育・ESD・GCED やユネスコスクールとしての活動に携わっている、または高い関心を持っており、韓国の教職員と積極的に交流し、プログラム後にはそれらの活動推進に寄与できる者
- (2) 日本の初等中等教育の教職員であること
- (3) オンラインにより提供されるプログラムの全日程に参加が可能であること
- (4) Eメールを用いて円滑に連絡ができ、また Microsoft Word / Excel を用いて所定フォーマットに必要情報を入力し提出できること

※過去に韓国政府日本教職員招へいプログラムにより韓国を訪問したり、韓国教職員の訪問受け入れに協力したことのある教職員や、英語または韓国語によるコミュニケーション能力の高い教職員の参加を歓迎します。

6 評価と報告

参加者は次のとおりプログラムの評価を行う。

- ・プログラム終了後、ACCU の実施するオンラインアンケートに回答する



グループ別オンライン意見交換の様子

7 通訳

公式プログラムにおいては、日本語と韓国語間の通訳が配置される。

●参加者リスト

No.	氏名	学校名	役職
1	松岡 由美子	埼玉県立浦和西高等学校	教諭
2	武者 明日香	東京都足立区立洲江中学校	教諭
3	松野 至	名古屋経済大学市邨高等学校	教諭
4	窪津 宏美	横浜市立南吉田小学校	主任教諭
5	陣野 俊彦	東京都立大島海洋国際高等学校	教諭
6	鈴木 未央子	八千代市立大和田南小学校	教諭
7	高倉 洋美	大牟田市教育委員会	指導主事
8	町田 直美	東京都立王子特別支援学校	主任教諭
9	松倉 紗野香	埼玉県上尾市立大石中学校	教諭
10	町田 登志子	千葉県立松戸国際高等学校	教諭
11	木下 和紀	青ヶ島村立青ヶ島小中学校	校長
12	嶋田 拓哉	千葉県立松戸国際高等学校	教諭
13	武田 貴裕	東京都多摩市立青陵中学校	教諭
14	望月 浩明	神奈川県立厚木東高等学校	教諭
15	朝日 仁美	糸魚川市教育委員会こども教育課	学校司書
16	小暮 直也	玉城町立玉城中学校	教諭

実施内容

世界中が COVID-19 の感染拡大による影響を受けている中、例年日本教職員が 1 週間程度韓国を訪問する「韓国政府日本教職員招へいプログラム」は、韓国内における教育機関の休校や分散登校等の状況を踏まえ「教職員同士の意見交換」に的を絞って「日韓教職員オンライン対話プログラム」という名前で実施されました。10 月 11 日(日)から 17 日(土)のうち 4 日間にわたり、初日は開会式とオリエンテーション、2～3 日目は平日夜間という時間帯を使った小グループの意見交換会、4 日目は報告会・閉会式というスケジュールで日韓合わせて 36 名の教職員が参加しました。グループ別の会議では「幼い子どもをあやしながら意見交換に参加する教職員」など、オンラインプログラムの可能性を感じられる場面もありました。議題としては、COVID-19 パンデミック下での教育活動、ESD や GCED 推進の意義、外国につながる子どもや家庭が直面している困難、オンラインと対面授業を並行的に実施することによる混乱など、多くのトピックが取り扱われ、率直な意見交換がなされていました。最終日の報告会では、たとえ交流の醍醐味である対面がかなわなくても、繋がり続けること、対話の機会を作ることの大切さが再確認されました。

1 期待される効果

本プログラムを通して、参加した韓国教職員のみならず日本教職員の変容をもたらし、

- ① 児童・生徒に多様性を受け入れる姿勢をもつことができるようになる
 - ② 学校により良い授業などを取り入れることができるようになる
 - ③ 教職員・学級・学校間交流が盛んになり、持続可能な成果が得られるようになる
 - ④ 教職員の自己肯定感を醸成することになる
 - ⑤ 教職員・児童・生徒のメディアリテラシーを向上させるようになる
 - ⑥ 児童・生徒のグローバル人材への歩みを促進させるようになる
- ことが期待される。

2 活動内容

ウェブ会議システムを活用し、以下の活動を行う。

- ① 動画視聴による学校視察
- ② 日本の教育制度、ESD や関連事項についての講義受講
- ③ 日本の教職員との意見交換
- ④ 日本の児童・生徒との交流授業の実施

3 日程

本プログラムは、開会式 / オリエン / 20 周年記念式典、高等学校グループ、小中学校グループ、アウトリーチ、報告会 / 閉会式から構成される。

なお、各高等学校へのオンライン訪問については、全員がオンラインで参画できるように、一校あたり 10-15 名の教職員とする。なお、希望のある教職員の複数校の参加を妨げるものではない。

イベント／グループ	韓国人数	校種	企画	実施日	学校名
開会式／オリエン ／講義／20 周年 記念式典	46 名	—	開会式／オリエンテーション	1 月 23 日 (土)	—
			MEXT 初等中等教育講義		
			日韓交流 20 周年記念式典		
A グループ	30 名	高等学校	高等学校オンライン訪問	1 月 26 日 (火)	長野県上田高等学校
				1 月 29 日 (金)	日本体育大学柏高等学校
				2 月 2 日 (火)	千葉市立稲毛高等学校
B グループ	16 名	小学校	小中学校教職員オンライン交流会	1 月 31 日 (日)	—
C グループ	4 名	—	アウトリーチプログラム	10 月 25 日 (日)	東京都八丈町三根小学校
				12 月 13 日 (日)	三重県鳥羽市神島中学校
				1 月 24 日 (日)	徳島県那賀町立鷺敷小学校
報告会／閉会式	50 名	—	報告会	2 月 7 日 (日)	—
			閉会式		

●参加者リスト

No.	姓	名	学校名
A-1	SHIN	MI AE	Topyeong High School
A-2	KIM	NANYOUNG	Raon High School
A-3	PARK	JI EUN	Hanyoung Foreign Language Highschool
A-4	PARK	JONGKWAN	Jeju Juang Girls High School
A-5	KIM	BYUNG HO	Jeonju Shin Heung High School
A-6	AN	HYOWJIN	Saint Paul's High School
A-7	HWANG	SEOKKYUN	Nonsan Daegeon High School
A-8	CHOI	SOMANG	Ok-Gwa High School
A-9	JEONG	HAK JIN	Baekje High School
A-10	YANG	MEE SOOK	Unjeong High School
A-11	HAN	SO YOUNG	Suil High School
A-12	LEE	SEO YOUNG	Gimhae Yulha High School
A-13	HEO	YONG	Pogok High School
A-14	KIM	INHEE	Seoul National School for the Blind
A-15	SHIN	JUNGHOO	Changnyeong Daesung High School
A-16	MUN	YUNJU	Muan High School
A-17	CHOI	EUN JIN	Gwang Moon High school
A-18	YANG	HYEWON	Docho High School
A-19	KIM	JANG HONG	Docho High School
A-20	CHO	KYOUNG SIK	Pyeongnae High School
A-21	JUNG	JUNGEUN	Michuhol Foreign Language High School
A-22	CHOI	WOO SEOK	Chungju Shinheung High school
A-23	KIM	HYUNJIN	Apgujeong High School
A-24	CHO	HAN JOO	Seoul Metropolitan Office of Education
A-25	KIM	GEON HUI	Shinsun Girls High School
A-26	RIM	HOSOORAN	Sunil e-business High School
A-27	CHOI	SUNG WOO	Baejeong High School
A-28	KIM	JI YOUNG	Ulsan Science High School
A-29	PARK	SANG-CHUL	Jinjeop High School
A-30	SHIN	JONG BEOM	Korean National Commission for UNESCO

No.	姓	名	学校名
B-1	KIM	HYUNJUNG	Songlim Elementary School
B-2	SEOK	KYEONG-WON	Incheon MyeongSun Elementary School
B-3	LEE	JI HYE	Seoul Midong Elementary School
B-4	AN	KYOUNGA	Incheon Cheongryang Elementary school
B-5	PARK	CHANSOO	Chiak Elementary School
B-6	LEE	CHOON HEE	Seoul Munsung Elementary School
B-7	LEE	HYENG SUB	Incheon Manseok Elementary School
B-8	CHO	EUN KYEONG	Jeonju Geunyoung Middle School
B-9	KIM	SE HEE	Dasanhangang Middle School
B-10	JUNG	MIN-HUIW	Kumgu Elementary School
B-11	KIM	MI YOUNG	Kumgu Elementary School
B-12	LEE	JI YOON	Youlhyun Elementary school
B-13	PARK	SEHUN	Yongmeori Elementary School
B-14	SHIN	YUSEOP	Sehwa Girls' Middle School
B-15	KIM	SOL	Chungra Middle School
B-16	JEONG	EUGENE	Ministry of Education

実施内容

昨年 COVID-19 感染拡大の影響で急遽中止となった当プログラムですが、本年度はオンライン高等学校訪問と小中学校交流会を組み合わせ実施いたしました。1月23日の開会式では、第1回招へいプログラムから参画し、日韓教職員交流に情熱を傾けておられる KNCU のソ・ヒョンスク氏に 20 年の歩みをお話頂くとともに、日本側からは八千代市教育委員会の村瀬正氏から、10 年間にわたる日韓教職員交流の取り組みについての紹介がなされ、その成果をご披露頂く共に、次の 20 年間への新たな展望を感じさせる内容でした。

学校訪問では、30 名の韓国教職員が 10 名ずつのグループに分かれて、長野県上田高等学校・日本体育大学柏高等学校・千葉市立稲毛高等学校をオンライン訪問し、教職員のみならず生徒との交流も深め、日韓の共通点や違いなどを確認しあうとともに、コロナ禍での対応策や語学学習・現在の課題について幅広い話題で意見を交換し合い、さらには今後の交流の継続についても語らうことができました。

小中学校交流会では、4 グループに分かれ、1 グループ韓国教職員 4 名に日本教職員 2 名という構成で、「コロナ禍における教育活動」について現状と課題、解決策について、150 分間というディスカッション時間を設けましたが、体験に基づく豊富な切り口があることから議論・意見が尽きることなく、多くの学び合いがなされたことは言うまでもありません。

今年度韓国との交流が 20 周年となることを記念し、過去の日韓教職員交流事業参加者から「コロナ禍で頑張る日韓の教職員を励ます未来を見据えたメッセージ」を集めポスターを制作しました。応募は日本韓国両国から募り、計 80 を超えるメッセージが寄せられました。多くのメッセージでは、コロナ以前に対面で交流した際の温かなやりとりが綴られており、コロナ禍において懸命に教育活動に取り組み互いを思いやるポスターとなっています。

前述ポスター制作同様、日韓教職員交流 20 周年を記念し初等中等教職員国際交流事業参加者・関係者専用 SNS：TREE 内に特設ホームページを開設しました。この中では、元文部大臣および外務大臣 現参議院議員の中曽根弘文氏、文龍鱗元教育部長官からお祝いのメッセージを頂くとともに、日韓教職員交流が始まった経緯や 20 年間の交流を時系列で紹介するページに加えて、過去 20 年間に日韓教職員交流事業に参加した方々の報告書から一部抜粋した文章を掲載しています。



日韓小中学校教職員交流会



長野県上田高等学校教職員との懇談会

関係者コメント

長野県上田高等学校 教頭 市川 格

1. 今回のオンライン交流から、教職員の皆さんや学校が得たものは何でしたか？

韓国の教職員が、日本の教育制度や教育内容などについて興味・関心を非常に持っているとい

うこと。国が異なっても、教職という立場では課題や関心に共通する部分が多いということ

2. 今回のオンライン交流から、児童・生徒の皆さんが得たものは何でしたか？

日本の現代文化が韓国の若者などの間で広く支持されていること。韓国の高校で、日本語の授業が開講されているところが多く、日本の比ではないこと。

3. 受入れた国の学校・教職員・児童・生徒の皆さんと引き続き交流を図ることを期待するようになりましたか？

日本、韓国それぞれから提案があり、今後実施に向けて検討していく予定。

4. 今回のオンライン交流の課題・改善案を教えてください。

慣れてきたら、ブレイクアウトの利用もできると、さらに少人数同士で密度の濃い交流ができるので、よいのではないかと思います。ACCU様はじめ多くの方のご助力を賜り、本当にありがとうございました。

千葉市立稲毛高等学校 教諭 篠崎 早織

1. 今回のオンライン交流から、教職員の皆さんや学校が得たものは何でしたか？

- ・オンラインでも生徒が楽しく国際交流をすることができると、経験を通して知れた点
- ・韓国の教育事情
- ・コロナ禍での教育の在り方について、意見を共有し、新たな視点を得られたこと
- ・教員同士、悩みを共有でき、今後に向けて研鑽を積もうと思うことができたこと

2. 今回のオンライン交流から、児童・生徒の皆さんが得たものは何でしたか？

- ・異なる文化を知れて、もっと韓国や韓国語について学びたいと思えた
- ・英語を外国語とする者同士で英語でコミュニケーションをとる経験をし、自信がついた
- ・韓国の学生がたくさん勉強していると知り、刺激を受けた
- ・外国の方とコミュニケーションをとるときに気を付けなければならないことを知ることができた
- ・韓国の方のレッスンで、アイデンティティというのは世界共通の話題であると知れた
- ・もっと自分の国や地域について知らなければと思った

3. 受入れた国の学校・教職員・児童・生徒の皆さんと引き続き交流を図ることを検討するようになりましたか？

はい。ぜひ行いたいと考えています。

4. 今回のオンライン交流の課題・改善案を教えてください。

生徒と教師との交流の時間をもっと設けたらより生徒が楽しめると思いました。致し方ないことですが、韓国の先生の授業の際、画面共有がうまくいかなかったようで、時間がかかってしまった点が残念でした。その点以外は、とても有意義で、素晴らしい体験でした。

韓国教職員招へいプログラム サブプログラム

アウトリーチ拡大のためのオンライン交流

プログラム概要

1 目的

地理的な要因により、これまで教職員を対象とした国際交流事業のフィールドとなる機会の少なかった地域において、学校と地域、あるいは国内外の教職員および学校間の連帯により、ESD の実践やSDGs の達成につながる教育活動、国際理解等を推進する道をともに模索・共有し、参加者のその後の教育実践につなげることを本プログラムの目的とします。加えて、これまで教職員の派遣・招へいによる対面式の交流を行ってきた初等中等教職員国際交流事業においては、下記のような意義を持ちます。

- ・教職員国際交流事業のフィールド拡大
- ・COVID-19 パンデミック下の状況下においても実施可能である教職員国際交流事業の模索
- ・教職員のネットワーク作り
- ・2020 年に立ち上げた教職員国際交流事業の関係者専用 SNS「TREE」の活用促進

2 日程・活動内容

・2020 年 8 月下旬～2021 年 2 月下旬を活動期間として、下記のような活動を実施しました。

時期	内容	備考
2020 年 8 月	・日本側参加者決定 ・TREE への登録、グループ作成	
2020 年 9 月	・韓国側参加者決定 ・日韓の参加者揃っての TREE グループ交流開始	
2020 年 10 月	・TREE を活用した情報交換およびフィードバック ・参加者全体の Zoom 会議（1 回目）	
2020 年 11 月	・TREE を活用した情報交換およびフィードバック	
2020 年 12 月	・TREE を活用した情報交換およびフィードバック ・参加者全体の Zoom 会議（2 回目）	
2021 年 1 月	・TREE を活用した情報交換およびフィードバック ・参加者全体の Zoom 会議（3 回目）	
2021 年 2 月	・オンライン上の報告会実施*	

* 本プログラムは、韓国教職員招へいプログラムを構成するものとして位置付けています。

3 参加者

《日本側》

- ・過去に日韓間の教職員国際交流事業に参加・協力した経験がある、もしくは本事業への関連性が高い活動を行っている教職員で、2020年度に島しょ部等の国際交流の機会が限られた地域に勤務している者3～5名
- ・専門家2名
- ・ACCUの担当職員

《韓国側》

- ・韓国ユネスコ国内委員会の推薦する、島しょ部等の国際交流の機会が限られた地域に勤務している教職員3名
- ・韓国ユネスコ国内委員会の担当職員1名

4 通訳

- ・参加者全体が参加するZoom会議、発表においてはACCUが日⇄韓の通訳を提供します。
- ・TREEでの情報交換については、英語の使用を推奨しますが、内容の専門性が高い場合など、必要に応じてACCUが日⇄韓の翻訳をサポートします。

●参加者リスト

	氏名	所属先名	職名
日本側 1	大場 一輝	東京都八丈町立三根小学校	校長
日本側 2	中垣 尚子	三重県鳥羽市立神島中学校	教諭
日本側 3	谷 篤彦	徳島県那賀町立鷺敷小学校	教諭
韓国側 1	キム・ヤンモ	臥龍 (Waryong) 小学校	教諭
韓国側 2	コ・ヨンナム	新南 (Shinnam) 高等学校	教諭
韓国側 3	イ・ジョンミョン	陝川伽倻 (Hapcheon Kaya) 小学校	教諭
韓国側 4	イ・スヨン	韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU)	プログラムスペシャリスト
専門家 1	手島 利夫	ESD,SDGs を推進する手島利夫の研究室	室長
専門家 2	金澤 裕司	北海道羅臼町教育委員会	自然環境教育主幹

プログラムの始まりは「交流事業のアウトリーチを広げるため、首都圏や大都市圏から離れており、1週間という交流プログラムの中で訪問することが難しい地域にフォーカスしたプログラムを実施する」というものでした。そのため、序盤には教育環境における多様性の確保や仲間作りの困難さ、孤独感も語られましたが、最終的には国も世代も超えて互いに励ましあい、「小規模だからこそ、都市部から離れた地域だからこそできることがある」というポジティブな方向に話が進みました。ここでの「小規模」は学校の規模を指しますが、交流プログラムとしてもまさに「小規模だからこそできること」の可能性を感じさせるものとなりました。

[illegible]

2018 年度



中国派遣



韓国派遣



インド招へい



タイ派遣

2019 年度



中国派遣

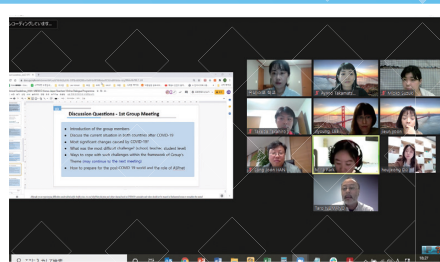


韓国派遣



タイ派遣

2020 年度



日韓教職員オンライン
対話プログラム

インド招へい



秋田県大館市の教育長
高橋 善之

我是秋田県大館市の教育長，



中国招へい



タイ招へい

タイ招へい



Expert Meeting



中国招へい



韓国招へい



インド招へい



中国招へい

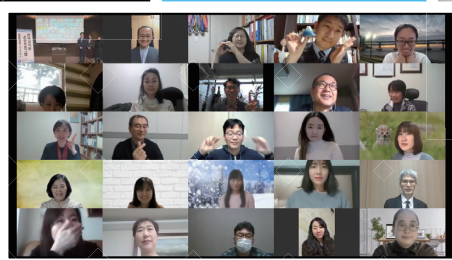
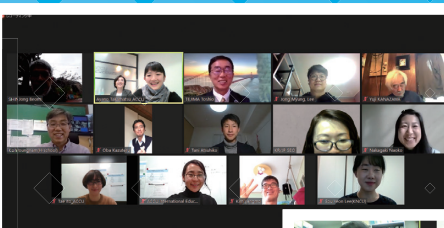


タイ招へい

韓国招へいサブプログラム



中国とのオンラインによる交流



韓国招へい



成果可視化委員会

プログラム関係機関

●文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT

文部科学省 大臣官房 国際課長	氷見谷 直紀
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長 (令和3年1月1日付 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長)	三輪 善英
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長補佐	松永 佳子
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 企画調査係 係長	小野 康平

●海外パートナー機関

- ・韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU)

Korean National Commission for UNESCO, KNCU

- ・中国教育部

Ministry of Education of the People's Republic of China

- ・タイ教育省

Ministry of Education Thailand

- ・インド教育省

Ministry of Education Government of India

- ・国際NGOインド環境教育センター (CEE)

Centre for Environment Education, CEE

協力してくださった教育委員会や学校（2020 年度）

●韓国教職員招へいプログラム

長野県上田高等学校	校長	廣田 昌彦
日本体育大学柏高等学校	校長	氷海 正行
千葉市立稲毛高等学校	校長	佐藤 啓之
八千代市教育委員会	教育長	小林 伸夫

●中国教職員招へいプログラム

大館市教育委員会	教育長	高橋 善之
大館市立北陽中学校	校長	伊多波 卓美
大館市立花岡小学校	校長	伊藤 哲朗
大館市立南中学校	校長	駒木 聖子
大館市立南小学校	校長	御船 美喜雄

●タイ教職員招へいプログラム

名古屋経済大学市邨高等学校	校長	澁谷 有人
山形県立山形東高等学校	校長	須貝 英彦

●インド教職員招へいプログラム

北杜市教育委員会	教育長	堀内 正基
北杜市立甲陵高等学校	校長	小尾 和正

事業実施・運営機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F

Tel: 03-5577-2853 Fax: 03-5577-2854

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫

Mr. TAMURA Tetsuo

理事長

進藤 由美

Ms. SHINDO Yumi

国際教育交流部長

高松 彩乃

Ms. TAKAMATSU Ayano

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

伊藤 妙恵

Ms. ITO Tae

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

岡野 晃一

Mr. OKANO Koichi

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

天満 実嘉

Ms. TEMMA Mika

国際教育交流部プログラムオフィサー

小澤 華木

Ms. OZAWA Hanako

国際教育交流部プログラムオフィサー

**文部科学省委託 令和2年度初等中等教職員国際交流事業
日韓教職員オンライン対話プログラム・
韓国教職員招へいプログラム実施報告書**

2021年3月

発行	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
〒101-0051	
東京都千代田区神田神保町 1-32-7F	出版クラブビル
電話	(03)5577-2853
Email	accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL	http://www.accu.or.jp
デザイン・印刷・製本	株式会社ワコー
編集	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際教育交流部

© 2021 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)

